

勤労者の福祉向上など目指す

富士宮地区 労福協 総会で活動方針決める

富士宮地区労働者福祉協議会（小林純一会長）の2014年度総会が20日、ろうきん富士宮支店会議室で開かれ、勤労者の福祉向上と福祉事業団体の育成強化を目指す活動方針を決めるとともに、「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」とする総会スローガンを採択した。

小林会長は「働く人の目線で行政要望を行うなど、引き続き働く人、公益のための活動を展開したい」とあいさつ。来賓として出席した県労働者福祉協議会の吉岡秀規理事長、須藤秀忠市長、富士宮市勤労者共済会（ハピネスふじやま）の河原崎信幸会長がそれぞれ「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」とする総会スローガンを採択した。

本年度活動方針では基本理念に「労働者の福祉要求の実現を通じて労働者家族の生活向上と安定を図り、真に平和で豊かな暮らしを保障する社会をつくる」を掲げ、具体的な活動として自治体への行政要望、未組織勤労者に対する支援、社会貢献活動、教育・研修活動、文化・レク活動、関連団体および福祉事業団体との連携などを決めた。

採択した総会スローガンではサブスローガンとして▽消費者教育推進地域協議会の設置と協議会へ参画しよう

▽労働運動、労働者自らの見える自主福祉運主福祉の連携による協働を推進しよう―を掲働事業の利用を促進しよう▽地域に根ざした



あいさつする小林会長